

5 . セラチア菌による腹膜炎をきたした CAPD の 1 症例

大分大学医学部泌尿器科

秋田泰之、平田裕二、松原孝典

平井健一、田崎義久、三股浩光

【症例】23 才男性。乳児期より精神発達遅滞あり。9 才時に蛋白尿を指摘、腎生検にて
巣状糸球体硬化症と診断され、19 才時に CAPD 導入。平成 16 年 8 月に腹痛、発熱がみ
られ、排液白濁し、培養より *serratia marcescens* 検出。抗生剤投与行うも治療に反応
せず、当科紹介となる。

【経過】8 月 28 日緊急入院後 CAPD チューブ抜去術、腹腔洗浄術施行し、血液透析に変
更した。発熱続くも、全身状態徐々に改善傾向にあった。透析時には安静保てず、鎮静
剤を使用しながら施行した。9 月 20 日呼吸状態増悪、CT 上両肺の浸潤影あり ARDS と診
断。人工呼吸器管理とし、ステロイドパルス療法施行した。

徐々に浸潤影の改善認め、24 日に離脱。その後解熱傾向あり、透析時の安静も保てる
ようになり 10 月 15 日退院、外来維持透析管理となった。